

介護アドバイザー・下山名月さんの介護技術講座を開催しました



介護職や看護師、一般の方も含めて16名が参加3人1組となり自立支援のための介助法を学びました

とを良く知ること。第3に本人を受け身にしないこと。第4に用具や設備を整えること。第5に力よりもバランスとタイミングとスピードが大切であることなどを下山さんから説明を受けた後、3人1組となって座り直しの介助や椅子から車いすへの移乗、床からの立ち上がり介助などについて実践を通して学びました。参加者たちは代わるがわる何度も試しながら自立支援のための介助法を学んでいました。

「意欲」と「機能」を引き出す介助法を体感

「動かす」のではなく「動いてもらう」

そらいろデイではこのほど、春のセミナーを開催しました。4回目となった講座は介護アドバイザーの下山名月（しもやま・なつき）さんによる介護技術講座。加齢や疾病でさまざまな障害をもったお年寄りが「まだ生きていこう」という生活への意欲と残っている身体機能を引き出すのが自立支援のための介助技術です。

講師は、三好春樹氏が主宰する生活とリハビリ研究所の研究員で、介助技術指導のスペシャリストの下山さん。講座では初めに、「適切な介助とは」について、第1に生理的な動きを援助すること。第2に一人ひとりのお年寄りのこ



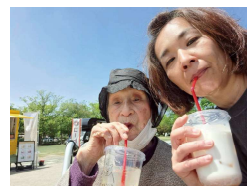
99歳のS子さん、大ゴッホ展を観に行く

スタッフと一緒に100歳を目前にして念願叶う笑顔で「冥途の土産ができた」と大満足の日

そらいろデイを利用している99歳のSさんが県立美術館で開催されている「大ゴッホ展」を観に行ってきました。今から50年以上も前に南フランスやスペインを旅行したことがあるこのSさんは、南仏のアルル地方を巡った際、ゴッホが描いた「水車小屋」の絵の風景を見てきたらしい。というわけで何としても「ゴッホに会いに行きたい」と大騒ぎ。そこでスタッフミーティングで検討した結果。相性のいいスタッフと2人で観に行くことになりました。こうして美術館の入口まで送迎付きで送り迎え。美術



館の中では知っている絵の前で学芸員も顔負けの解説を披露するなど無茶ぶりを発揮してきたそうです。「冥途の土産ができた」と笑顔で帰ってきました。



手づくり醤油づくりが始まりました～特製麴と金剛水でもろみの仕込み

2年前から計画していた醤油づくりがようやくスタートしました。二本松に拠点をおく「ひなた醤油研究所」さんの協力が得られることになったのが始まり。大豆と小麦でつくった特製の醤油用麴13kgが届いたので、さっそく山の湧き水金剛水17リットルをまぜてもろみの仕込み。スタッフたちも腕まくりで手伝ってくれました。いろんな人の手が入ることで、よりおいしくオリジナルテイあふれる醤油へと育てることができる、そうです。12月の「搾り」が楽しみです。

